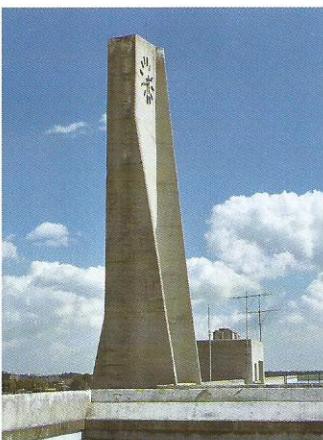




二中校舎の三階ベランダ崩落



二中時計塔(震災前)

東日本大震災による二中地区的被害状況

(地区長アンケートまとめ)

三月十一日に発生した東日本大震災により、東北三県及び茨城県は大きな被害を受けました。土浦市も震度六弱による被害を免ることはできませんでした。発生より四ヶ月がたつた時点で全地区長さんのご協力をいただき、二中地区内の被害状況や震災発生時の対応状況についてまとめました。今後発生が予想される東南海地震、南海地震に対する備えの一助になれば幸いです。

●土浦市の被害

(市総務課作成六月二十日現在の資料より)

災害対策本部を三月十一日15時20分に設置し、情報収集、緊急対応等を開始した。

水神橋（虫掛地区）で段差発生、県道大志戸地区で陥没、県道花室で段差、天川二丁目、下高津一、二、三丁目でブロック塀倒壊、道路に亀裂、



鹿島神社本殿

人的被害は筑波山登山者が落石のため、一名死亡の届けがあった他は軽傷者七名であった。住宅被害は全壊五棟、大規模半壊79棟、半壊110棟一部損壊2910

十一日18時には市内小中学校等30カ所に避難所を開設、JR乗客も含め、市内全体で2324名を受け入れた。

●二中地区的被害状況

震災後、屋根瓦、特に棟瓦の崩壊家屋が目立つと共に、神社寺院内の石灯籠をはじめ石碑、石像類、墓石の倒壊、崩壊被害はかなりのものであった。各地区の公民館も対策本部として活用できたが、真鍋新町公民館は液状化、地割れ、地盤沈下があり、半壊状態になつた。また第二



33号

平成23年9/1
二中地区市民委員会
文化・広報部発行
電話 824-3588
FAX 824-3553

ビル壁崩落等々、市内各地で通行止めや片側通行規制が発生した。

14時48分市内全域で停電、それに

伴い県南、県西水道の送水停止。17時40分土浦地区配水停止、東部ガス

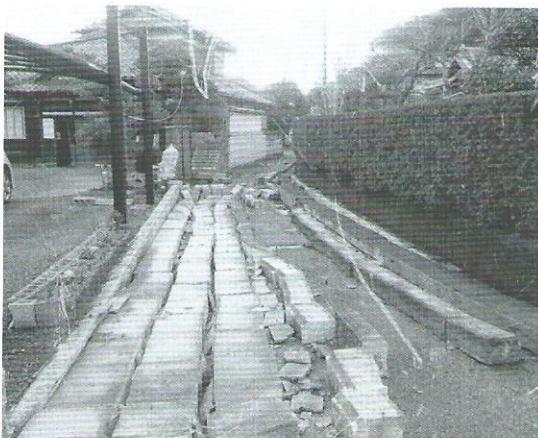
20時15分全面供給停止とライフラインはストップした。電気は十二日深夜までに全域復旧したが断水状態は十四日14時に土浦地区が通常の50%

復旧したもの、全面復旧は十八日夜18時であった。また、ガスの復旧完了は三月二十八日であった。



鹿島神社境内

中学校の時計塔は倒壊の危険性があり、撤去せざるを得ない状態になつたのは、真鍋地区のシンボル的存在であつただけに、真に残念でした。時計塔の復活と共に、校舎の耐震性増強工事が早期に完了し、子ども達の安全、安心が確保されることを切望するものです。



塀の倒壊



液状化

町で被害が多く出ています。平成二十二年六月発行の「市民くらしの便利帳」76、77ページの揺れやすさマップ及び危険度マップを参照するとうなずける結果ですが、このマップがもう少し理解し易く、見易いものであればと今になつて思うことでした。

●震災直後の各地区の動き……

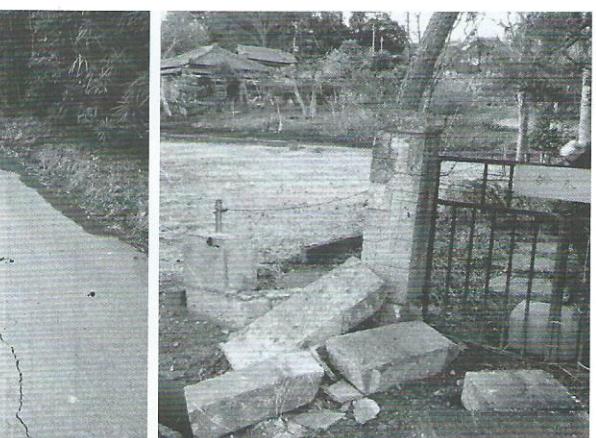
一方、人的被害がなかつたことは不幸中の幸いでした。地区長アンケートを集めると全壊家屋が一棟、屋根瓦損壊は約250棟、外壁損傷、塀倒壊はそれぞれ數十カ所に及びました。また、地割れ、液状化が20カ所程度発生しています。

各地区被害状況を比較しますと旧木田余街道沿いの木田余地区、真鍋

一、二、三、四丁目、東真鍋、真鍋新

中学校の時計塔は倒壊の危険性があり、撤去せざるを得ない状態になつたのは、真鍋地区のシンボル的存在であつただけに、真に残念でした。時計塔の復活と共に、校舎の耐震性増強工事が早期に完了し、子ども達の安全、安心が確保されることを切望するものです。

中学校の時計塔は倒壊の危険性があり、撤去せざるを得ない状態になつたのは、真鍋地区のシンボル的存在であつただけに、真に残念でした。時計塔の復活と共に、校舎の耐震性増強工事が早期に完了し、子ども達の安全、安心が確保されることを切望するものです。



塀の倒壊

地割れ

電力が復旧すると、井戸保有家庭では道路際に「井戸水有り、ご利用下さい」の掲示をするよう声を掛けあうことも行われました。大規模に炊き出し活動を行つた地区もありました。若松町では薪、米を購入し、青年会、町会役員が中心となって「にぎり飯」をつくり、携帯マイクで呼び掛けると共に、一部は独居老人宅へ配布しました。町内で常備していた餅つき道具が大変役にたつたとのことでした。

残念なことですが、木田余旧二区（沖）で震災発生と同時に火災が発生しました。すぐに旧二区の防災組織が活躍し、延焼を防止する初期活動が行われました。防災員10名と、要請に応じて駆けつけたつゝば国際大付属高校野球部の監督以下部員10名によるプロパンガスボンベの撤去や交通整理、瓦礫撤去による消防車通行路の確保が行われました。これらの事は普段から防災意識を持つて訓練していた証と賞賛される行動といえます。さらに、近くの協同病院への救急車通行路確保も継続して行うと共に、ガス洩れの危険もあること、停電が長びくと考えられたため、地区内家庭に各家庭での炊飯は行わず、共同して炊き出しを行うように、

中での家族の安否確認も行いました。特に断水対策としてペットボトルを用に発電機を調達して避難所や井戸保有民家に持込み、給水体制を確保した地区もありました。12日夜、

● 今後必要と考えられる事……
各地区長さんの要望、反省で最も多かったのは「町内防災組織の見直し」です。

心遣いが行われた事は特筆すべき事と思ひます。

組織として活動する機会がなかつたため、有名無実化していたり、折角保有していた器材が使えなかつたため、有名無実化していました。折りした地区もありました。今回を良い機会として、組織の見直しが行わ



若松町炊き出し

◇地震のときの心得◇

- ①身の安全を守る。
- ②すばやく火の始末をする。
- ③戸を開けて出口を確保する。
- ④火が出たらすぐ消火する。
- ⑤あわてて外に飛び出さない。
- ⑥狭い路地やブロック塀に近づかない。
- ⑦山崩れ、かけ崩れに注意する。
- ⑧避難は徒歩でする。
- ⑨応急救護は協力し合って行う。
- ⑩正しい情報を聞く。

家の中の備え

■火災防止対策

- ・暖房器具の耐震自動消火装置が、作動するか定期点検をする。
- ・カーテンは、できるだけ防炎加工のものにする。
- ・ガスレンジなど火元まわりは不燃化するとともに、いつも整理整頓をする。
- ・消化器は一定のところに置き、まわりにものを置かない。
- ・ガス台の上には、棚などをつくらない。
- ・プロパンガスのボンベは鎖でしっかりと固定する。
- ・ブロック塀や石垣の崩れは補強する。
- ・不安定な屋根上のアンテナや屋根瓦は補強する。
- ・ベランダの植木鉢などの整理整頓をする。

家の外の備え

- ・器具及び公民館調理室から借用の器具で準備すると共に善心寺照井の井戸からポリタンクで水を搬送（野球部員担当）し、米60kgで300人分の「にぎり飯」をつくって配布しました。

配布対象は木田余地区ばかりではなく、聞きつけた近隣の人達が集まつたため、子供優先、一人二個と限定し、居住地に関係なく配布する心遣いが行われた事は特筆すべき事と思ひます。

れることは真に『災い転じて福となす』で喜ばしいことと思ひます。

防災無線放送に対する苦言、改良の要望も多く、市役所、消防署等と住民との相互連絡方法は議論の余地があります。

断水に備え、井戸水を活用できるよう町内井戸マップの必要性も強調されています。停電時には汲み上げができないため、発電機が必要ですが、地区防災組織で既に保有しているところでは定期点検、実施訓練の必要性を指摘するとともに、飲用適否かの定期的検査体制整備が提案されています。

防災用器機類の整備強化も当然ですが、炊き出し用の「非常米」備蓄についても真剣に考えるべきとの提案もありました。明治時代から各地区消防団がその役割を果たしてきた歴史があるので、今回の災害を機会に、歴史がある地区がその役割を果たしてきました。明治時代から各地区消防団がその役割を果たしてきた歴史なので

に先人の知恵を思い出し、それを生かす具体的な方策を考える必要があるでしょう。

「緊急時避難所」を知らない人がまだ多いとの指摘も見られます。市民くらしの便利帳75ページに地震の避難場所一覧表がありますが、建物の耐震性避難通路の安全確保も含めてPR方法の検討が求められます。

この機会に、家庭や地域中心で話し合いを深め、すべての人の命が守られることを切望するものです。

事故発生から五ヶ月が過ぎ、新たな爆発が起こらない限り、放射性ヨウ素の寿命は尽きたので、セシウムに注意を払う時期にあります。地上に降下したセシウムが風に巻き上げられ浮遊している量や川の上流地区に降下したものが水に溶けて、農業用水や上水に入り、作物や飲料水に移行していないか等の注意が重要です。識者は「被害を正しく知つて、正しく恐れよう」と呼びかけています。そこで、放射線被害の理解と対処方法を考える参考になればと以下にまとめました。長坂真一郎山形大学前教授の講演資料（六月五日市内で開催）及び朝日新聞六月十九日GLOBE版記事他を参考にしました。

三中地区 地震時の避難場所

- ◇真鍋小学校
- ◇都和小学校
- ◇都和南小学校
- ◇土浦第二中学校
- ◇土浦第一高等学校
- ◇つくば国際大学高等学校

各地区長さんの要望、反省で最も多かったのは「町内防災組織の見直し」です。

放射線被害

被害には早発影響(確定的影響)と晩発影響(確率的影響)があります。早発影響は原子爆弾が爆発した場合やチエルノブイリ原発のように瞬時に大爆発して放出された大量の放射線を浴びて直ぐに現れる障害で、例えば皮フのただれや脱落、脱毛、急性白血病等があります。晩発影響は低線量を長期間浴びて十数年後から現れる障害(がんで死亡)です。死亡確率が一%とか五%と表現されます。同じ線量を浴びた人が全てがんで死亡することを意味してはいませんが、土浦ではあり得ません。したがって低線量被爆による晩発影響について考えることになります。

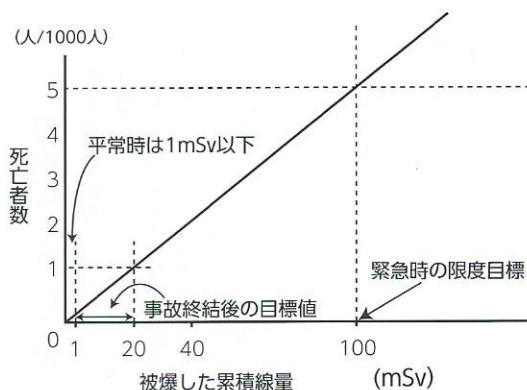


図1 ICRPの低線量被爆リスクの考え方
(事故現場及びその周辺に対する)

以下の被爆量でも比例的な影響を受けるとする現在、最も有力な考え方としたがうと、10 BSS₀では一万人に五人という値になります。

この値を理解するために、原発事故発生以前のがんによる死者数を知つておく事は重要です。参考資料として(独)国立がんセンター発表の2009年死亡データに基づく「年齢階級別死亡リスク表」があります。それによると、生涯では男性が一人に2600人、女性は1600人ががんで死亡することがわかります。そのため、一万人に五人の割合で増えることは大きな変化ではないという見方ができます。一方、今迄浴びることのなかつた放射線を余分に浴びている事實を無視すべきでは

土浦市の状況

- 大気中の放射線量 $0 \cdot 127 \mu\text{Sv}/\text{h}$ (六月八日県測定)
 - 公民館敷地(二中、都和) 約 $0 \cdot 21 \mu\text{Sv}/\text{h}$ (市測定、第十五回目)
 - 校庭(第二中、真鍋小) 約 $0 \cdot 20 \mu\text{Sv}/\text{h}$ (市測定、第十四回目)
 - 水道水 セシウム不検出 (八月十一日)
 - 清掃センター焼却灰、セシウム $135 \mu\text{Bq}/\text{kg}$ (七月十一日測定)
 - 土浦地区水田一ヵ所で土壤測定 $10 \mu\text{Bq}/\text{kg}$ (土浦農協公表)

一般公衆の被爆量計算例

国際放射線防護委員会(ICRP)2007年勧告(自然放射能と医療を除く)

1~20mSv/年を目安に対策する (地表 大気 呼吸 食物からの合計)

$$1 \text{ mSv/年} \div (24 \text{ 時間} \times 365 \text{ 日}) = 0.11 \mu\text{Sv/時間}$$

自然放射線量(国連科学委員会報告):世界平均 2.4mSv/年

計算例:0.11/Sv/時間の地点で一日の8時間を屋外、16時間を

木造住宅屋内(放射線量は屋外の4割)で一年間過ごした場合

$$(0.11 \times 8) + (0.11 \times 16 \times 0.4) = 1.58 \mu\text{Sv}/\text{日} = 642 \mu\text{Sv}/\text{年}$$

$\equiv 0.642 \text{mSv}/\text{年}$ の被爆量になる。

$1\text{ Sv} = 1,000\text{ mSv} = 1000 \times 1000 \mu\text{Sv}$ (Sv:シーベルト、m:ミリ、 μ :マイクロ)

ので側溝、池、水溜まり等で高い放射線量を示すことが多いと考えられます。放射線量は距離の二乗に反比例して減少するので子供達が近寄らないように指導することは必要でしょう。被爆量が年間 1 BSV 以下の実現をとり確実にするためには測定地点及び食品の測定品目を増やし、測定値を速やかに公示することが必須です。体制整備を行政に要望すると共に私達がいろいろな形で測定作業に協力することも求められるでしょう。



東都和
津久井 良夫
ゴルフ
初心忘るべからず



木田余町
川島 一男
ゴルフ、麻雀
明るく正直に



殿里
菊田 政次
社交ダンス
プラス思考



真鍋六丁目
大川 勝己
そば打ち、陶芸
前向きに一生懸命やる



町 地区長名
町 長名
趣 味
座右の銘

二中地区 新任地区長 紹介

◆新委員長挨拶◆



市民委員会
委員長
羽生 佐洪

このたび市民委員会委員長に選出された真鍋五丁目地区長の羽生佐洪です。

委員長になつてみると、組織や活動については見聞により理解しているつもりでも、設立や目標設定の時代背景という根本理念をはつきり理解していないことに気づき、私なりに調べてみました。昭和五十年土浦市では、市民憲章を制定し、土浦市民憲章推進協議会を設立し、種々のまちづくり活動を行つてきました。

そして平成十二年度に「地区市民委員会」と「まちづくり市民会議」もスタートしました。そこで二中地区市民委員会でも、地区長をはじめ、子ども会育成会、婦人会、PTA、学校、高齢者クラブ、地域内各種団体などあらゆる地区住民によつてより細やかなまちづくり活動が展開できるようになります。

土浦市民憲章の趣旨にのつとり、二中地区的市民の交流と融和を図る

とともに地区市民が協力し、住みよいさわやかなまちづくりに寄与することを目的とすることが市民委員会の役割と考えます。総会でも参加者全員で「市民憲章」の唱和がありました。

さらに事業の円滑さを図るため各町内から選出された方々により六つの専門部が置かれています。皆さんは他地区の羨望の的であります。

最後になりましたが、皆様には今後とも変わらぬご指導とご協力をいたさながら、実践目標の達成に努めてまいる所存ですのでよろしくお願い申しあげ、挨拶いたします。

◆新館長にインタビュー◆ (挨拶にかえて)



二中地区公民館
館長
浜田 衛

■浜田 館長 □文化広報部
□4月の人事異動で公民館へ来られた館長ですが、慣れましたか?

■以前、生涯学習課におきましたので公民館業務はある程度わかっていますが、市民委員会や社会福祉協議会の事務局の仕事がありますので勉強中です。

■後期は、面白そうな講座になりそうですね。

■市民委員会については、市長の進めている「市民との協働」をより実のあるものにするため、社会福祉協議会の支部事務局の立場からもボランティア活動の支援に力を入れたいと考えています。

■本や映画が好きですが、山登り、オートバイ、サイクリング、カヌーなどのアウトドアも好きです。今年の夏は、北アルプスの燕岳から常念岳を縦走してみたいと思っています。

■今後の抱負などを聞かせてください。

■公民館講座については、3月まで図書館に勤務しておりましたので本に関連した講座が出来ないか、検討しています。最近、電子書籍が話題ですが、実際に体験する講座を企画しています。リリュールという古い本に新たな装丁を施し、生まれ変わらせる技術があるので、電子書籍の対極にあるものとして、紹介してみたいと考えております。また、ここの公民館の特徴である中庭を舞台に、今までのコンテナガーデニングを超えた庭造りとガーデニングを一体化した講座が出来ないかと知恵を絞っています。

■館長の趣味を教えてください。

運営委員会・市民委員会

事業計画

平成二十三年度二中地区公民館運営委員会及び市民委員会の総会が去る五月十五日(日)に開催され、平成二十三年度事業計画が原案どおり承認されました。その概要をお知らせします。

■運営委員会事業計画

①「入りやすい」「集まりやすい」「使いやすい」「楽しい」「ためになる」

地域の拠点としての公民館を目指していく。

②実践目標
③生涯学習の拠点として機能を強化する。

・講座の充実

・同好会・サークルの育成

④地域総合ケアシステム「ふれあいネットワーク」の構築

・社会福祉協議会支部機能の整備

・地域ケア関連事業の充実

・福祉ボランティアへの支援強化

⑤「安心安全なまちづくり」を目指したコミュニティ活動の推進

・市民活動交流の拠点機能の充実

・出前講座・市民団体の連携講座への配慮

④子供のための生涯学習の充実

・チャレンジクラブの開催

・サタデーイベントの開催

⑤図書室の整備

・蔵書の整理

②前期公民館講座(五月～八月)

・篆刻(てんこく)を楽しむ

・傾聴心の通う聞き方を学ぶ

・布草履を編む

・レザークラフト「ペントレイ」

・ハワイアン・フラ

・子どもの水彩画教室

・祝！UNESCO結城紬を学ぶ

③後期公民館講座(十月～十二月)

・「タブレット型コンピュータ」の開く未来～電子書籍～

・山ガール入門

・目指せ！自転車ツーキニスト

・気になる!気象の話

・心とカラダをつなぐYoga

・手で綴じる本ルリユール入門

・はじめての庭づくりと秋から冬のコンテナ

・がんばろうIBARAKI野菜秋の彩り食べつくし

④第二十五回二中地区文化祭開催

十一月二十日(日)～二十七日(日)

①文化・芸術展(一般の部・小中学
生の部・団体の部)

②芸能大会

③模擬店

④その他団体発表

○福祉部

・福祉映画鑑賞会・福祉教習会

・子育て交流サロン「のぞみ」見学

○安全部

・青色防犯パトロール講習会

・防犯パトロール・交通安全キャ

ンペーン

・生活に役立つ法律教室

・視察研修

○スポーツ健康部

・二中地区体育協会への協力

・バスハイキング事業の開催

・チャレンジクラブ参加・協力

○環境部

・花いっぱい運動

・グリーンカーテン運動

・土浦市環境展への参加・協力

・ポイ捨て防止看板の作成・設置

・チャレンジクラブ参加・協力

○青少年育成部

・やすらぎ33号・34号発行

◇広報啓発活動

・広報誌「社協だより」等による

広報活動

「誰もが安心して暮らせる
福祉のまちづくり」

社協真鍋支部事業計画

二中地区公民館の「社会福祉協議会真鍋支部」は、支部職員(地域ケアコーディネーター)が常駐する身近な福祉の相談窓口です。地域福祉活動の拠点として、関係機関と連携しながら様々な相談に対応しています。例えば、

○ひとり暮らしの高齢者が食事づくりや掃除に困っている。

○福祉サービスを受けたいけれど、どうしてよいか分からない。

○家族に介護が必要になった時、利用できる制度を知りたい。

など、気軽にご相談下さい。

社協真鍋支部は、「住み慣れた地域で安心してくらしたい」という市民の皆様の願いを実現するため、市民参加のもと、小地域福祉活動を積極的に展開しています。

本年度の事業計画は次のようになりました。

④広報啓発活動

・広報誌「社協だより」等による

広報活動

①文化・芸術展(一般の部・小中学
生の部・団体の部)

◇研修活動

- ・支部委員研修の実施
- ・インスタントシア（高齢者疑似体験）、車椅子体験等、各種福祉体験講座
- ・宅配ボランティア研修会
- ・ふれあいネットワーク（地域ケアシステム）の推進
- ・要支援者や関係機関等からの相談受付
- ・実務者により地域の要支援者への対応を協議する「スクラムネット」の開催
- ・医療・保健・福祉の専門職により対応困難なケースを協議する「ふれあい調整会議」の開催
- ・民生委員児童委員協議会及び市民委員会と連携して地域の要支援者の把握
- ◇地域福祉活動
- ・宅配型食事サービス事業の実施（第1金曜日・第3土曜日）
- ・会食型食事サービス事業の実施（年3回）
- ・ひとり暮らし高齢者交流会の開催（年2回）
- ・ふれあいきいきサロン事業の推進
- ・車椅子の貸出し（短期）

チャレンジクラブの活動

指導員
久保田紀子

チャレンジクラブは、地域の小中学生が公民館を拠点にさまざまな体験活動をしながら、仲間づくりや地域を大切にする心を育む事業です。市民委員会、特に青少年育成部の皆さんのお援をいただき、小学四・五・六年生30名が元気に活動しています。

子どもたちが集団で遊ぶ姿がめっきり減ってから3年以上たつと言われます。生活環境の変化とはいえ、少し淋しい気がします。子どもにとつて自分の暮らすまちは、かけがえのない遊び場であり、その中での自由な遊びを通じて、冒険心や挑戦心、体力、社会性などが自然に身についていくのです。また、地域で暖かく見守られ育てられた思い出は、一人ひとりの心に「ふるさと」を深く刻むことになるはずです。

チャレンジクラブに参加した仲間が一年間の体験を地域に伝え広げてくれることを期待しています。

（活動計画紹介）

- 5月 開講式とサツマイモ苗植え
- 6月 まが玉づくりと野外炊飯
- 7月 霞ヶ浦フェスティバル参加

8月	工場見学 (住友金屬鹿島製鉄所)	浅田 次郎
9月	絵手紙をかこう	木内 昇
10月	りんりんロードサイクリング	真保 裕一
11月	収穫祭（サツマイモ掘り）	道尾 秀介
11月	二中地区文化祭参加	村上 龍
12月	筑波山登山	深井 律夫
1月	ランチづくり（料理）	朝吹真理子
2月	フラワーアレンジと閉講式	一路 晃司

奇跡力	1Q 43	終わらざる夏（上下）	浅田 次郎
		漂砂のうたう	木内 昇
		天使の報酬	真保 裕一
		月と蟹	道尾 秀介
		歌うクジラ（上下）	村上 龍
		連戦連敗	深井 律夫
		お初の繭	朝吹真理子
		小暮写真館	一路 晃司
		風にもまげず粗茶一服	宮部みゆき
		弧船	松村 栄子
		紅葉する夏の出来事	渡辺 淳一
		爛れた闇の帝国	拓未 司
		マボロシの鳥	太田 光
		光媒の花	道尾 秀介
		パンギン・ハイウェイ	森見登美彦
		桐島、部活やめるつてよ	朝井リョウ
		狼たちの聖戦	五十嵐貴久
		交渉人・籠城	西村 光代
		ハ日日の蟬	角田 信彦
		苦役列車	落合 信彦
		ブルー・ゴールド	柏原 賢太
		寝ても覚めても	柴崎 裕一
		海に沈んだ町	真保 裕一
		三崎 亜記	奥田 友香
		井上 裕之	村上 春樹
		（次号に続く）	井上 裕之

新着図書紹介

前期講座

受講生からの声

「傾聴～心の通う聞き方を学ぶ～」

馬場

尤基

この度、講座に参加させて頂き、まさに「案内」にありましたとおり、「話す」の倍「聞く」ことが必要であり、また「聞くことを学ぶことによって、生活空間が広がっていく」ことを学ぶことが出来ました。

講座は、ボランティアサークル代表の安西健二先生のご指導で12名ほどが参加し、3回9時間に亘って行われました。

先ず座学において、人は誰もが自分の心中を聴いてもらいたい欲望があり、そこに良い聞き手が必要という日常生活上の根本的な事柄、又コミュニケーションの原理等を専門的な観点から学びました。次に「良い聞き手」になるためには話し手の言い分をありのままに聴き、心情を理解する「人間尊重」の態度をもつて、「自分自身のことのよう共感し、且つ一緒になつて感情が揺らがない」という大変高度な能力を身に付けなければならないことを学びました。講座を通じ少子高齢化が進み、家族・職場・地域社会での人の繋がりが難しくなつてゐる今こそ、「良い聞き手」が重きをなしており、又「傾聴ボランティア活動」の必要性・重要性を認識できた次第です。講義は先生の多年に亘る実際の経験に基づいた内容で、アシスタントの方のお話も含めて活動現場の様子を彷彿とさせるものでした。また、ロールプレイング（話し手・聞き手・評価者の3人一組）での迫真的演技にタジタジとしつつ、参加者皆様の意識の高さに心から敬意を表している次第です。

私は民生委員・児童委員を始めて日も浅いのですが、高齢者や育児中のお母さん方に接する機会も多くなつてまいりました。早くゲッドリスナーになり、支援のための聞く技術（モード）を身に付け職務に役立てられるよう今後とも精進してまいりました。ご企画ありがとうございました。

宮部先生より途中経過での指導や激励をうけ自分らしい判子が出来あがる。篆刻は、まさに世界にひとつしかできない「オンラインの判子づくり」です。

最後にこの講座は初心者クラスとはいえ「篆刻」に関して全くの無知だった私にとつて不安がありましたが、先生や他の受講生の方々から講座の雰囲気を盛り上げてもらい、「篆刻を楽しむ」ことができました。ありがとうございました。

今回「篆刻を楽しむ～初心者～」という全8回の公民館講座を受講しました。

園部 友作



編集後記

本期は部長はじめベテラン部員が交替し、戸惑いながらの編集でした。

33号は震災特集としました。皆様のお役にたてば幸いです。一日も早く、おだやかな社会になることを願うばかりです。

「カラダ」美しくなる ハワイアン・フラを受講して

坂本 敬子

かねてよりフラダンスを習いたいと願っていた娘と受講しています。日曜日の開講なので平日に仕事をしている娘も参加できるのでさっそく親子で応募しました。さて8回コースのスタートです。フラダンスに興味のある若い人から年配の人、30人くらいがお仲間です。指導してくださいました。

さる先生の一曲通しての踊りもみせてくれます。指導してくださいました。ハワイアン・フラは、手の先から足の先まで、神経をゆき届かせてゆつたりと踊ります。心身共に足の動きに、みんな、うつとりしました。

こうね」「上半身は、そんなにグラグラさせないで」と娘にお尻をたたかれながらも楽しんでいます。

